

昭和医科大学 国際交流センター NEWSLETTER

vol.03 2026年1月



新年あけましておめでとうございます。昨年は国際交流センターの活動に多大なるご支援とご協力を賜り、誠にありがとうございました。

本年は干支の「馬」にちなみ、力強く駆け抜ける一年にしたいと考えております。

学生・教職員の皆さまが世界とつながり、交流を深める機会をさらに充実させてまいります。引き続きご指導ご鞭撻のほど、よろしくお願い申し上げます。

昭和医科大学国際交流センター 一同
2026年 元旦

医学部 新たにタイ2大学と学部間協定を締結

医学部は、国際的視野を備えた医師養成を推進するため、2025年12月、新たにタイの主要2大学医学部と学部間協定を締結しました。本協定は、学部生が参加する1か月間の海外選択実習における実習先の確保にとどまらず、教職員間の教育・研究における相互交流の新たな可能性を切り拓くものです。

今回、学部間協定を締結した1校目は、バンコクに位置するタイ医学の最高学府であるマヒドン大学シリラート病院医学部です。同医学部は1888年に創設され、現在では年間約300万人の外来患者を受け入れる、タイを代表する医学教育・医療の中核拠点です。訪問団（松山高明教授、土屋静馬教授、三浦健氏）は、学部間協定締結式にあわせて巨大な病院群を視察し、最新機器を備えた医療施設のなかで指導医やシニアレジデントが医学生を導きながら症例を議論する教育現場を見学しました。特に、臨床・教育・研究が有機的に融合した教育環境は、診療参加型臨床実習に参加する本学医学部学生にとって、医師としての覚悟を養い、多彩な疾患を有する患者の診察を通じて専門性を飛躍的に高める、極めて貴重な学びの場となります。

2校目はナコンシータマラートに所在するワライラック大学医学部です。広大な敷地に数々の大学病院を有し、充実した教育環境を求めて世界各国から短期・長期留学の学生が集っています。そのため同大学では学生寮をはじめとする生活基盤の整備に加え、教職員・スタッフが一体となって留学生を支える手厚い支援体制が構築されています。今後の長期的かつ実践的なパートナーシップの発展が強く期待されます。

さらに今回のタイ訪問では、すでに学部間協定を締結しているマヒドン大学ラマティボディ病院医学部を訪問し、2026年度以降の学部学生海外選択実習に向けた具体的な受入体制を確認しました。また、さまざまなプロジェクトで協力関係にある上智大学のASEANハブセンター（バンコク）を表敬訪問し、日本の大学による海外拠点運営に関する実践的な知見を得ました。

昭和医科大学は今後も、医療者教育の質を一層高めるため、戦略的かつ持続可能な国際連携を推進していきます。



↑ マヒドン大学シリラート病院と学部間協定を締結
Asavamongkolkul 医学部長と固く握手！！



← ワライラック大学
医学部との調印式

調印書にサインを
するPunsawad医
学部長と松山高明
教授（医学部長代
理、医学部国際交
流委員長）



↑ マヒドン大学ラマティ
ボディ病院を訪問
Worawichawong副医学部長と



↑ 上智大学ASEANハブセンター
を表敬訪問
日本の大学の国際戦略について
伺った

国際医療協力を展開しています！



小児内科からバングラデシュへ

小児内科では小児内科教授 加藤光広先生を中心に、日本小児神経学会が取得した厚生労働省 令和7年度 医療技術等国際展開推進事業資金を用いた「バングラデシュの小児神経医療水準向上とリーダー人材育成支援プロジェクト」を展開されており、昭和医科大学で将来のバングラデシュにおける小児神経学をけん引される3名の医師の研修を実施されています。



小児循環器・成人先天性心疾患センターからモンゴルへ

富田 英先生が理事長を務めるNPO法人ハートセービングプロジェクトは、2025年もモンゴルで小児の心エコー検査による検診事業と必要な患者さんへのカテーテル治療を行いました。このプログラムでの活動経験を喜瀬広亮先生と矢内 俊先生に富士吉田教育部選択科目の国際協力論で講演していただきました。1年生が世界に向けて視野を広げる良い機会となりました。



小児外科からカンボジアへ

小児外科では小児外科教授 渡井 有先生を中心に、公益財団法人 国際開発救援財団(FIDR)の依頼を受け、カンボジア北東部クラチェ州にある州立病院から医師3名とスタッフの見学を受け入れました。先生方は洗練された医療システムや細部まで丁寧な医療サービスに興味津々のご様子でした。小児外科のカンボジア小児医療支援は1980年代から続く活動です。



国際交流センター主催 Winter Party

12月18日、カフェテリアアミに大学院留学生4名・学部留学生3名と医歯薬学部学生13名・職員9名が集まり、ウインターパーティーを開催しました。食事やビンゴ、おしゃべりをして一足早いクリスマスを楽しみました。



第8回 昭和医科大学 留学者交流会



2025年10月9日、留学者交流会 (SURAC 主催) が開催され山岸元基先生 (医学部泌尿器科学講座：ハワイ大学留学)、上條翔太郎先生 (薬学部基礎医療薬学講座：ピッツバーグ大学留学) より留学報告がなされました。発表では研究成果に加え、現地での生活や苦勞も語られ講演後の懇親会では将来留学を志す参加者との活発な意見交換が行われました。

留学生のための日本語授業

昭和医科大学では、2014年から危機管理の一環として、海外からの留学生を対象に「サバイバル日本語教室」を開講しています。今秋は10～11月にかけて全6回の授業を実施し、韓国・スペイン・オーストラリア・フランスからの6名の留学生が参加しました。授業では日常生活で役立つフレーズや表現を学び、今年も留学生から好評をいただきました。



本学職員・学生のためのTOEIC対策

10～11月、TOEIC対策講座 (全5回) を実施しました。本講座では、TOEICの概要説明、Listening & Reading テストの一般的な解き方のストラテジー、問題演習、ポイント解説に加え、英語学習のヒントについても学びました。海外留学を目指す学生だけでなく、教職員にとっても英語力向上の良い機会となっています。今回は、学部学生26名 (医学部7名、歯学部5名、薬学部11名、保健医療学部3名)、大学院生2名、教職員15名の計43名が受講し、英語学習への意欲の高まりを強く感じました。

【寄稿】マヒドン大学（タイ）とタイの薬剤師の視察に行ってきました

今回はご寄稿いただいた視察報告をご紹介します。

薬学部病院薬剤学講座 臨床研究部門/統括薬剤部 薬学部・薬学研究科国際交流委員 准教授 百賢二先生

今年4月、薬学部協定校であるマヒドン大学（タイ）のアンポン先生が本学を訪問され、本学における臨床教育の視察が行われました。ご訪問のきっかけは、小池講師（臨床薬学講座天然医療治療学部門）のマヒドン大学への留学であり、そのご縁から、百が江東豊洲病院薬剤部ならびにベッドサイドで活躍する臨床薬剤師の業務をご案内したことにより交流が始まりました。その後も継続的なやり取りを重ね、今回病院薬剤学講座としてマヒドン大学を公式に訪問することとなりました。2025年12月1,2日に、当講座の船越助教とともにマヒドン大学を訪問し、教育・研究に関する意見交換を行ったのち、タイの病院薬剤師・薬局薬剤師の業務実態について視察する機会をいただきました。

1日目に教育・研究に関するディスカッションを行い、本学における臨床薬剤師育成の取り組みに対して多くのご質問をいただき、学部学生の交流のみならず、教員による相互訪問にも強い関心が示されました。研究紹介の場でも、両大学が連携を深め、人的交流を一層推進していくべきであるとの認識を共有しました。2日目には薬剤師業務を見学し、日本とは大きく異なる医療環境や薬剤師の役割に触れ、大きな刺激と示唆を得ることができました。昭和医科大学とマヒドン大学の双方における薬剤師を取り巻く環境について、相互理解が一段と深まったと感じています。病院薬剤学講座では今後も毎年マヒドン大学を訪問し、国際色豊かな病院薬剤師の育成に継続して貢献していきたいと考えております。



マヒドン大学（タイ） Sitaporn先生来校

2025年10月1日、マヒドン大学（タイ）薬学部副学部長のSitaporn Youngkorn先生が本学を訪問されました。本学からは原 俊太郎薬学部長、加藤 大薬学部・薬学研究科国際交流委員長をはじめ9名が出席し活発な意見交換を行い、両校のパートナーシップをさらに強化し、学術的協力の拡大を目指すことを再確認しました。その後は、



薬局シミュレーション室や生薬標本室など、キャンパス内の薬学部の施設および留学生用の寮等を見学していただきました。

ウィーン医科大学からカイン先生が来校



2025年11月17日に医・歯学部の協定校であるウィーン医科大学（オーストリア）から病理学教授のレナーテ・カイン先生が来校されました。腎臓の自己免疫性血管炎をテーマに形態学的解析と分子技術を融合した最新の研究成果をご講演いただき、基礎と臨床をつなぐ視座に富んだ活発な議論が行われました。

医学部海外選択実習（臨床実習V-B）に向けた準備が進行中！

医学部5-6年は2026年2月から5月にかけて、39名の学生が世界各地で約4週間の海外実習を行う予定です。学生たちは、異なる文化や医療システムを体験し、国際的な視野を広げる貴重な機会を得ることになります。

本プログラムの成功には、海外の協定施設との関係を維持し、学生をサポートしてくださる先生方のご協力が欠かせません。特に**深貝隆志先生**（泌尿器科学）にはハワイ大学と、**真田建史先生**（精神医学）にはサラゴサ大学と、**尾本正先生**（川崎市立川崎病院・昭和医科大学国際交流センター兼任講師）にはウィーン医科大学・HDZ NRWとの関係維持に加え、実習予定学生との面接や事前指導などの海外実習に向けた準備を丁寧にサポートしていただいています。特に10月30日には尾本先生にウィーン医科大学・HDZ NRWで実習予定の学生にドイツ語ミニレクチャーや英語でのディベート演習などを行っていただきました（写真）。こうした先生方の熱意と支援が、学生たちの国際的な挑戦を力強く後押ししています。

2026年2-5月海外選択実習予定施設

アメリカ合衆国：ハワイ大学、UCLA

オーストリア：ウィーン医科大学

台湾：台北医学大学

韓国：キョンヒ大学

スペイン：サラゴサ大学

タイ：マヒドン大学シリラート病院、マヒドン大学ラマティボディ病院、

プリンス・オブ・ソクラー大学、ワライラック大学

フランス：クロード・ベルナル・リヨン第一大学

フィリピン：フィリピン大学

ハンガリー：センメルweis大学 ルーマニア：カロルダビラ大学

ドイツ：ルール大学ポーフムHDZ NRW

イギリス：グラスゴー大学（医学教育振興財団による留学）



2025年1月にハワイ大学から来た医学部留学生と本学循環器内科医師による症例報告がEuropean Heart Journal – Case Reports に掲載されました

2025年1月にハワイ大学医学部より本学医学部内科学講座循環器内科学部門へ学部留学生として短期留学していたJonathan Hu先生と、本学循環器内科学医師との共著の症例報告がEuropean Heart Journal – Case Reports に掲載されました。

Diagnostic challenges in identifying myocardial infarction due to coronary vasospasm in pregnancy complicated by partial HELLP syndrome: a case report

Jonathan Hu, Satoshi Higuchi, Hiroki Tanisawa, Toshiro Shinke

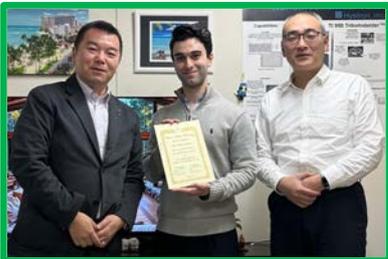
European Heart Journal – Case Reports, Volume 9, Issue 10, October 2025, ytaf496, <https://doi.org/10.1093/ehjcr/ytaf496>

今回の掲載は、留学を通じて築かれた交流が帰国後も継続し、実際の学術成果として結実した大変意義深いものです。

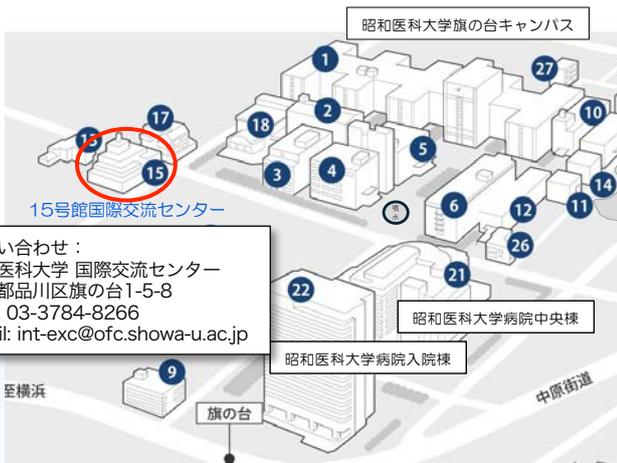
学部留学生受け入れ報告 10～12月

10～12月に学部留学生をご指導くださった部署のご紹介です。皆様ご指導・ご協力ありがとうございました。

クロード・ベルナル・リヨン第一大学薬学部からの留学生が11月18-19日に富士吉田キャンパスを訪問しゲストハウスに宿泊しました。1年生と交流を深め、また富士山を身近に感じる大変良い機会となりました。ご尽力いただいた薬学部および富士吉田教育部の皆様ありがとうございました。



学部	学生受け入れ部署	在籍機関(国名)	人数	受入れ期間
医学部	昭和医科大学病院 麻酔科	台北医学大学(台湾)	1名	9月8日(月)～10月3日(金)
		サラゴサ大学(スペイン)	1名	10月20日(月)～11月28日(金)
	昭和医科大学病院 泌尿器科	サラゴサ大学(スペイン)	2名	9月1日(月)～10月17日(金)
	昭和医科大学病院・東病院 整形外科	サラゴサ大学(スペイン)	1名	10月20日(月)～11月28日(金)
	横浜市北部病院 リハビリテーション科	サラゴサ大学(スペイン)	1名	9月1日(月)～10月17日(金)
	江東豊洲病院 消化器外科	サラゴサ大学(スペイン)	1名	10月20日(月)～11月28日(金)
	昭和医科大学病院 産婦人科	ウィーン医科大学(オーストリア)	2名	9月29日(月)～10月24日(金)
	昭和医科大学病院 耳鼻咽喉科	ウィーン医科大学(オーストリア)	2名	10月27日(月)～11月7日(金)
	昭和医科大学病院 眼科	ウィーン医科大学(オーストリア)	2名	11月10日(月)～11月21日(金)
	昭和医科大学病院 脳神経内科	ウィーン医科大学(オーストリア)	2名	11月25日(火)～12月19日(金)
歯学部	歯学部交換留学	ウィーン医科大学(オーストリア)	1名	10月27日(月)～11月28日(金)
薬学部	薬学部交換留学	クロード・ベルナル・リヨン第1大学(フランス)	1名	10月6日(月)～12月19日(金)



お問い合わせ：
昭和医科大学 国際交流センター
東京都品川区旗の台1-5-8
電話：03-3784-8266
Email: int-exc@ofc.showa-u.ac.jp

編集後記

🍀新年明けましておめでとうございます。

おかげさまで旧年は国際交流センターも、私個人も大変充実した1年をおくることができました。

昭和医科大学の国際交流の発展は皆様のご協力の上に成り立っております。本年もご鞭撻のほど何卒よろしくお願い申し上げます。



国際交流センターに2025年12月より大野 玲 助教が加わりました。どうぞよろしくお願いいたします。

(古田厚子)